

飯 山 の 方 言

佐 藤 厚

飯山で生まれ育ち、その後20数年の間に大阪、横浜(現住)の生活圏を巡りながら飯山を訪れると、故郷の言葉は懐かしさと共にいかに生活文化に密着していたかがうかがえる。車や電車もなかった昔、特に長い時は半年に及ぶほどの冬季期間は3～4メートルの積雪で他の地域との交流も隔絶され、限られた地域だからこそ生まれた言葉もあったと思われる。現在は飯山の生活文化圏も拡大され、東京は既に日帰り観光旅行もでき、京都、大阪も日帰りができる時代になり、言葉の文化交流も多様化され方言が使われなくなりつつある。とはいえ、まだまだ、世代を超えて伝えられ、使われている飯山の方言は確かに存在している。そんな言葉の数々を日常生活の中から紐解いてみた。方言辞典によると、飯山地方(下水内)の方言は1700～2000語あり、各言葉を組み合わせ、イントネーションを含めると限りない。口語(イントネーションを含む)として使われているものを単語に分化することは難解な部分もあるが方言集などとも照らし合わせ、筆者自身も使用でき、現在の飯山でも使われていると思われるほんの一部の方言ではあるが例文を用いて述べてみる。

<天地・気候>

・ゆきおろし

低気圧が迫り、降雪前(大雪になりそうな時)に鳴る雷。

(例)おえ、ゆきおろし鳴ってらさ。今夜は大雪になりやしねかい。

・なで、なぜ

本来は「雪崩」の意味になるが、転じて「なでよけ、なぜよけ」等屋根に取り付ける雪の滑り止めに。また、積雪が多く(1m以上に)なり、屋根の先の雪が崩れ落ちそう

になってきている状態を「なでてきてる」などと用いる。

(例)屋根の雪、なでてきてらさ。あぶねから下ば通っちゃ、えげねで。

・しみる

冷え込む。凍る。複合語として「しみ豆腐(高野豆腐の意)」がある。

(例)今夜はさびだねがい。水道管しみて破裂するかもしんねな。

・かんじる

「しみる」と同類の意味をなすが、さらに激しい冷え込みを意味する。寒の入り、小寒、大寒などの「寒」という強い音感の言葉が動詞化されたものである。

(例)今朝はえらく寒じてらさなあ、きんな(昨日)積もった雪、しみわたりできらさ。

・のくとい(のくてえ)

暖かい。

(例)今日のはのくてくて、気持ちいいだねがい。

<農業に関する方言>

現代ではあまり使用されなくなっているが、かつて農村生活では多用されていたであろう言葉で、今もなお使用されているものを述べる。

・おろのく

間引く。

(例)大根葉ば、おろのいてくらさ。

・ほとばす

水につけてふやけさせる。

・とっこ

木の切り株、桑の切り株。

(例)桑どっこを割る。

※養蚕関連では「おこさま、こぼそだて、すくら」等、蚕を大切に育てる生活に

由来する言葉がある。

<社会的>

・いじかめる

いじめるの強調感。「しゃっかめる」が背景にあると思われる。

・よばれる

ご馳走になる。

・おごっそー

ありがとう。

(例)今日はいっぺ(沢山)よばれて、おごっそさまでごぞんした。

・さんば

さようなら。「さらば」の転用。

・だあ(だれえ)

いや。(否定的な時に用いる。)

(例)だあ、そんなことしんさ。(誰がそのようなことをしますか、しないでしよう。
反語法。)

<行動・状態動作>

・おった

折れた。「落ちた」と誤解されやすい。同意語に「おしよる」があり、「折る」を強めたもので、「押し折る」からの転化したもの。力を込めて折る動作の言葉として「おっほしよる」がある。

・おっこす おっこわす

壊す。

(例)あの家、おっこわれそうださ。

・ふんだくる

無理やり奪い取る。「ふん」は接頭語。「踏ん張る」や「踏ん反り返る」と同様に「踏み」が変化したもの。「だくる」は「手繰る(たぐる)」でとりあげること。

(例)弟にお菓子ふんだくられた。

・かんます

かきまわす。

・けっこくる

蹴りとばす。

・しっちゃんばく

破くの強意。引き裂く。

・もんじゃくる

ぐちゃぐちゃに丸める。

・び(べ)ちやる

捨てる。「打ち遣る(ぶちやる)」の転化。

(例)しっちゃんばいて もんじゃくって べちやてくんねか。(破いて丸めて捨ててくれ。)

・おぶう

背負う。子どもを背負う時などに使われ、「負う」からの転化と言われている。

<人の様子>

・ごんじゃ

駄々っ子。強情な様子。

(例)あの子っさ、ひんね(昼寝)から起きたら、ごんじゃばっか起こしてらさ。

・くらせる

殴る。

(例)いたずらばっかすると、くらせるぞ。

・どやしつける

強く叱りつける。叱りながら殴るなどの意にも使われる。

・ままやく

どもる。

・まる

大小便をする。

・だまかす

だます。子どもをなだめる際にも使う。

・せう

言う。「そう言う」が短縮されたものと言われる。

・～てう

～と言う。

(例)そうこうしてるってうと、遅れるな。

・こつ

かたくな。片意地。頑固者。

(例)あいつは、こつなやつだ。

・ねなくら

くだらない。他愛もないこと。ねなは「根無し」で根も葉もないことをまことしやかに言うこと。くらは名詞形を作る接尾辞。

同意語で「らっちもね」…埒が明かない状況から転じたものと思われる。

(例) そんな、ねなくらばっかこいてねえで早く寝ろ。(そんなくだらないことばかりしてないで、早く寝なさい。)

・おっかない

恐ろしい。怖い。

(例) おめこさ、おっかねことばっかさせてるだねかい。

(あなたは、恐ろしいことばかり言いますね。)

・もうらしい

可哀そう。気の毒だ。

(例) あの子、母親亡くして、えらい(とても)もうらしいねえ。

・みぐさい

見苦しい。醜い。

・しょうしい

恥ずかしい。「笑止」からの意味の屈折を経て生まれたものと言われる。

・じょんのび

楽になった。気楽だ。

(例) 畑仕事も終わって、あーじょんのびじょんのび。

・～のきなしに

～に気づかないで。

(例) 何のきなしにやってしまった。

<状況>

・しなくれる

しなびる。

(例)畑のナスがしなくれてる。

・ の一のーと

ゆったり。のんびり。 同類に「きのずに」。

(例)あいつは、の一のーと生きてらさなあ。

・ うわっかわ

表面。表層。 反対語は「したっかわ」

・ ぎょうさんない

たいそう。大げさだ。

(例)あの方は、ぎょうさんない人だ。(大げさにものを言う人だ。)

・ けそけそしてる

日が暮れかかり薄暗くなり始めたこと。

・ よっぴて

一晚中。

・ よんべ

昨晚。「よーべな、よんべな」ともいう。

・ やめる

ずきずきと痛む。我慢できそうもない痛み。「病む」が自動詞化されたものであろう。

(例)腹がやめて、しょうねやさ。

・ あいさ

間。

・ へえ

もう。既に。

- ・ぶすた(と)いろ

打撲で黒紫色になったところ。

<語尾の特徴>敬語的な語尾

- ・～なさる、なさった なして

(例)行きなさる。行ってきておくんなして。

- ・～る

(例)おめ、どこへ行かるい？

- ・～ござんした でやす

(例)ありがとござんした。 そうでやんした。

- ・～ず

(例)一緒に行かず。(行きましょう) 寒いだらず？(寒いでしょう？)

- ・なんで なんじゃった

(例)そこへは行かなんで。 やっぱり、その服は買わなんじゃった。

<日常生活の中で慣用的に使用されることば>

- ・あるをつくす

宴会などで出された飲食物を残さず召し上がれ、(あるものを食べ飲み尽くす)の意。宴の中締めで、一旦その場を締めくくるが、主催者が「では、皆さんこの後はあるをつくしていただいて、ゆっくりお楽しみください。」などと言う。

- ・やだくて

謙遜したり少し恥ずかしい気持ち、軽い驚きを表す時に使う。婦人が使うことが多い。

(例)「きれいになったね。」「もう、やだくてえ。」

・～(だ)しない？ (主に女性が多く使用)

～(だ)しねか？ (男性が強調する場合などに使用)

～じゃないですか？背景には「～だよね。」と同意を求め、念を押す意が隠れていると思われる。

近年、須坂地方から生まれたと言われている。

(例)今朝はすごく寒じたしない？ おめ、昨日遅れて来たしねか？

以下の会話は、北信(最近は中信も含まれつつある)地方の方々が理解できる会話であろう。

「やだくて、そんなことしないしない？」「え？するしない？」

【方言民話】

「奥信濃の昔ばなし(1～5巻)」岡田千春：再話・編集をもとに、(ほとんどが方言で編集されている)その中でほぼ共通語で語られているものを「方言」で書き表している。語尾などは昨今、主に使用されているであろう「方言」も織り交ぜてある。

－鬼ばくち：4巻 第11話－

下水内郡 栄村屋敷

昔あったっちゃ(ありました)。夫婦もんが住んでん。(住んでいました)
子どもも年よりもいねぐて(いなくて)

「あと継ぐもんも、しかたもねやさ。(後を継ぐ者も、方法もない)」

「死にゃあ鬼んとこ、いぐしかねやさなあ。(行くしかないなあ)」

そもって(と思って)鬼の像ば(像を)彫ってさ、一生懸命拜んでたん。(拜んでいました)

旧正月の十五日の夜、突然その鬼あ(鬼が)もの言い出したんだっちゃ。

(言い出したのでした)

「おめたち(お前たち)夫婦は、わけえのに(若いのに)よくこのおれば拝んでくるなあ。(拝んでくれるなあ)なんか礼ばしてえけんども(お礼をしたいが)見たとこ、えらい貧乏で困ってるようだしねえがい。(困っているようじゃないか)

今日は、おめにばくちばおせえてやる。(お前にばくちを教えてやる)おらがさいころん(に)なって、おめが「長」せえば(と言えは)「長」、「半」せえば「半」になってやらさ。

(なってやろう)振っ立てる時に、みんなの張り方ば見て、自分の思った目ばせえ。(言え)」って。

男はえらい喜んじまって、やったこともねえばくち場へ行っさ。せわれた通りやると、金はえっぺえ(いっぱい)集まり、えらぐ(すごく)もうかったっちゃ。

頃合いは見計らって、男が、「えっぺえ鬼に出れ」ってせって、さいば(さいころを)振ると、突然でっがい鬼が出てきたん。

そこにいたしよは(そこにいた衆は)えれえびっくらこいて(とてもビックリして)持ってた金銭ば投げ出して、逃げだしたってえやさ。(逃げて行ってしまったそうなおかげで)夫婦は、えらぐ金持ちんなってさ、一生楽に暮したんだっちゃ。

(暮らしたということです)

そればっか。(それっきり)

【方言居酒屋談議】

冬の飯山。とある居酒屋。雪まつりの雪像準備が整い、20～60歳代の男衆8人ほどの酒宴。

会話は断片的ではあるが現在の「飯山弁」の姿がある。

A：(50歳代、店の人に)こんちわー、せわんなりやす。(世話になります)こっちでええかや？

B：(60歳代年長者)おめさんたちやあ(あなたたちは)、そっちのほうえげさ。

(そちらの方に行き(座り)なさい)

C D E：(20歳代年少者達)え～、おれた(俺達)、そんな上座じゃわりだんかえ。(悪いです)

A：いいさあ。まあ遠慮しないで(しないで)座ってくんなして。(座ってくださいな)

D：そじゃ(そんな)、もうしゃけねやさ。(申し訳ないです)

B：ええがら、ええがら。(いいから、いいから)

A：まあ今日は、みんなして、まあんず(とても)良くやってくれたさ。ごくろさんでやした。(ご苦労様でした)まあ、いっぺやってくんねかい。(一杯飲みましょう。飲んでくださいな。)

E：そうどこじゃねえ。(とんでもないです)

(※本来は、冗談じゃない、言われるまでもない等の意となるが、謙遜した言い方に変化している時もある。)

F G H：(40~50歳代)こんちわー、おせぐなりやしたあ。(遅くなりました)

皆、えるかや？(いるかな)

G：おーえたえた。(いたいた)

H：わりなえ(悪いね)おそぐなっちまって。(遅くなっちゃって)

F：先、やってらったかい？(飲み始めてましたか?)

B：えーまだださ。(いやいや、まだだよ)わけしょ(若い衆)皆、まってらったでえ。

(待ってましたよ)

G：そうかえ、もうしゃけねえ。そじゃ(それでは)、Bさん、おねげえしやす。

(お願いします)

B：今日は皆さん、ありがとござんした。今年やゆぎ(雪)すくねぐて(少なくて)心配したけども、なんとか雪像もできやした。(できました)きんな(昨日)から寒じてきたさけ(寒くなってきたから)、へえ(もう)大丈夫ださな。(大丈夫だと思うね)

明日もおねげえしやす。(お願いします)そじゃ乾杯！(それでは、乾杯！)

C：だけん、(けれど)きんなは、どうなるかそもったでえ。(どうなるかと思ったね)

D：そうだない。(そうだねえ)

C：集めてきたせう(集めてきたという)雪は、ザラメっぽくなるしさ、午後ぬくてくならさ(暖かくなったら)雪像の右っぺたの(右側の)腕もげて(とれて)おったさ。(落ちたよ)

(「折れた」と同意に使われている)

E：そうそう、やだくなっちゃあさなあ。(いやになっちゃうよな)

F：くずんたの見てさ、(崩れたのを見て)ちいせえ子(小さい子)おっかねせて(怖いと言って)どっか行ったださ。(どこかへ行ってしまったよ)

—子どものことから、各家族の話題に…—

A：そういや(そう言えば)Dさんちじゃ、子どもどんなだえ(どうですか、元気ですか)

D：やっそこ、ハイハイし出して、目え、はなさんねやね。(目が離せませんね)危なくて、

しょうねやさなあ。(仕方ないですよねえ)

E：わにねかえ？(人見知りはしない?)

D：ちっとな。(ちょっとね)おめんこは？(あなたの子は?)

E：おらんのは(うちの子は)えらくわにてさあ。まいっちゃあさ。(困ってしまうよ)

B：まあ、いんだねえがい。(良いんじゃない)とうちゃとかあちゃば(父さんと母さんを)好きだせうことださ。(好きだということだよ)じょんじょんに慣れてくらすさ。

(徐々に〈だんだん〉慣れてくるよ)

A：かあちゃんに、しんぺえすんなせつとけや。(心配するなと言っておきなよ)

G：そういやHさんち、受験だねえんかえ？(受験じゃなかったかな?)

H：そうなんださ。(そうなんですよ)でも本人さっぱ(さっぱり)勉強しねやさ。(しなくてですよ)親の方が焦ってらさね。(焦ってしまいますね)

G：えー、そのつくんのほうがいいんださ。(いやいや、そのくらいの方が良いんだよ)

H：そうかやあ…。(そうかなあ)

G：そうならず。(そうだろう)

B：親あ(親が)焦ったって、しょうねやさ。(仕方ないよ)

—終宴の頃—

A：ほじゃ(それでは)年寄や先、けえるで。(帰るよ)あと、わけしょ、あるをつくしてな。

(出ているお酒や肴は残さず召し上がれの意)

CDE：ごっつおさんです。(ご馳走さまです)ありがとあんした。(ありがとうございました)

F：ほじゃみんなして、つぎ、いぐかえ？(では、みんなで次行きましょうか?)

E：いぐっちゃ、おら先とんでって見てくらさ。

(行くなら、私が先に走って行って見てくるよ)

G：Eさん、いっつもあーださ、ずくあんなえ。(いっつもあんなふうに、ずくがあるねえ)

店の人：雪えっぺ(いっばい)降ってきたで。さぶくねえように、支度してえっておくんなして。

(寒くないように、身支度をして行って下さいな)

みんな：おせわさ～ん(お世話になりました)ありがとー。おーさびさび。(寒い寒い)等々

－飯山の雪の夜は長い－

【方言ショートコメディ「せった(言った)－北信地方－】佐藤 厚：作

〈せったか、せわねか、せってみろ〉

A：こんちわー

B：おう。

A：こないだの、せったかせわねか、せってみろ、って話だっけんさ。

B：あ、それな。その前にさ、その「せった、せった」せうのがだめなんださ。

A：なに、せってんの？

B：んだから、それ。せったってせっちゃえげねって、せってるんださ。

A：おめだって、せってるだねがい。

B：な～にせってるんだやら。いいか、よーく聞けな。

おれは、「せった」なんてせってねえの。

A：せってらさ。

B：せってねーって。

A：ほれ、せってるし。

B：せわねーよ。

A：まだせってる。

B：おめだって、せってる。

A：せわねーよ。

A・B：…せってるし。

B：もう、いつまでも、せった、せわねばっか、せっていると、お互いに

A・B：世話ねえし。

おあとがよろしいようで…

【参考文献】

- ・『下水内の方言』青木千代吉 飯水教育会著 長野県飯水教育会 発行(昭和51年5月)
- ・馬瀬良雄「方言よもやま話——信州方言とそのおもしろさ——」『文化の諸相』上田女子短期大学(平成18年7月)
- ・佐藤 厚「奥信濃の昔ばなし(方言編)」『観光文化研究所 所報』第7号 上田女子短期大学観光文化研究所(平成21年3月)